



# 日銀おかやま 金融経済レポート

2021年3月1日

## 新型コロナウイルス感染症の下での岡山県経済 ～2021年2月までの1年間の振り返り～

日本銀行岡山支店

本稿は、岡山支店総務課 中山 功暉、森岡 優 が執筆を担当しました。  
本稿に関するお問い合わせは、日本銀行岡山支店総務課（電話 086-227-5111）までお願い致します。  
なお、本稿は日本銀行岡山支店のホームページ (<https://www3.boj.or.jp/okayama/>) でもご覧いただけます。  
本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行岡山支店までご相談ください。  
転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

➤ 2020年からの岡山県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から春頃にかけて大幅に落ち込んだ後は、5月下旬に全国の緊急事態宣言が解除され、経済活動が徐々に再開するも、年後半以降は持ち直しの動きがみられている。もっとも、感染症の影響が残り続ける中、持ち直しのペースは緩やかなものにとどまっている。とりわけ人々の生活様式が変化し、消費行動が抑制されていることの影響が大きい個人消費を中心に、業種・業態によって影響の大きさが異なる様子が確認されている。

➤ 個人消費は、20年春頃に財（モノ）・サービス消費のいずれも大幅な落ち込みがみられた後、感染症の動向に左右されつつも、全体としては持ち直しの動きがみられている。仔細にみると、モノ消費では巣ごもり需要の高まりから、家電量販店等で好調な販売動向となっている一方、外出機会の減少による衣料品や化粧品の需要の弱さ等、一部で鈍さがみられる。また、旅行や飲食等の対面型サービス消費では、感染症が比較的抑制されていた20年秋頃に、政策効果もあって幾分持ち直しの動きがみられたが、年末の感染症再拡大により再び厳しい状況となっている。その反面、内食需要の高まりから、スーパーでは好調な地合いが続いている。

—— BOX 1 (P.6) では、新規感染者数の動向が人出に及ぼす影響などについて分析したほか、業態別の販売動向の特徴を整理した。また、BOX 2 (P.8) では感染症対策を意識した行動による2020年の消費支出の変化を品目別に詳しく確認した。

➤ 生産や輸出は、20年春頃に大きく落ち込んだ後は、足もとにかけて持ち直し基調を辿っている。内外需の回復を受けた自動車関連業種や、自動車向けの素材業種、スマートフォン向けの電子部品等が好調な電気機械関連業種が持ち直しを牽引した。春頃からの生産調整と、その後の需要回復から、足もとは多くの業種で在庫が減少する局面にあり、傾向としては当面生産の持ち直しが継続することが期待できる。

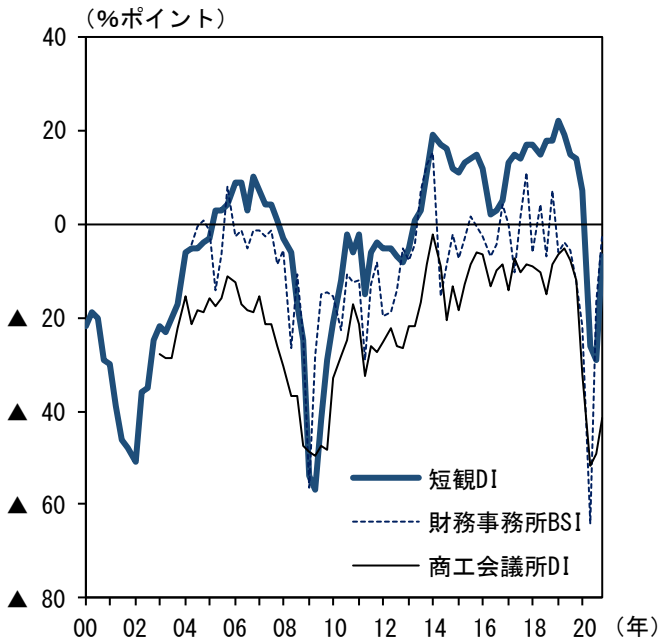
—— BOX 3 (P.12) では、全国と比較しながら県内製造業の特徴を確認したほか、出荷・在庫バランスという観点から、主要業種の動向を整理した。

➤ 設備投資は、20年度計画は前年を下回る見込みとなっているが、物流拠点の新設や生産拠点の維持更新・能力増強投資等がみられる中、高水準を維持している。厳しい収益環境が長期化した場合、設備投資が鈍化するリスクもあるが、今のところ計画を先送り・中止する動きは限定的となっており、企業の投資マインドが腰折れせず、確りとしている様子が確認できる。

➤ 雇用・労働環境は、20年春頃の操業度の低下や営業時間短縮の影響から求人が減少し、有効求人倍率も低下したが、製造業の持ち直し等を背景に足もとでは低下に歯止めがかかっている。所得面でも所定外労働時間が一時に比べると増加してきたほか、所定内給与も前年を上回って推移している。もっとも、収益環境が厳しい企業を中心に賞与削減の動きもみられており、引き続き下押し圧力が強い状況にある。

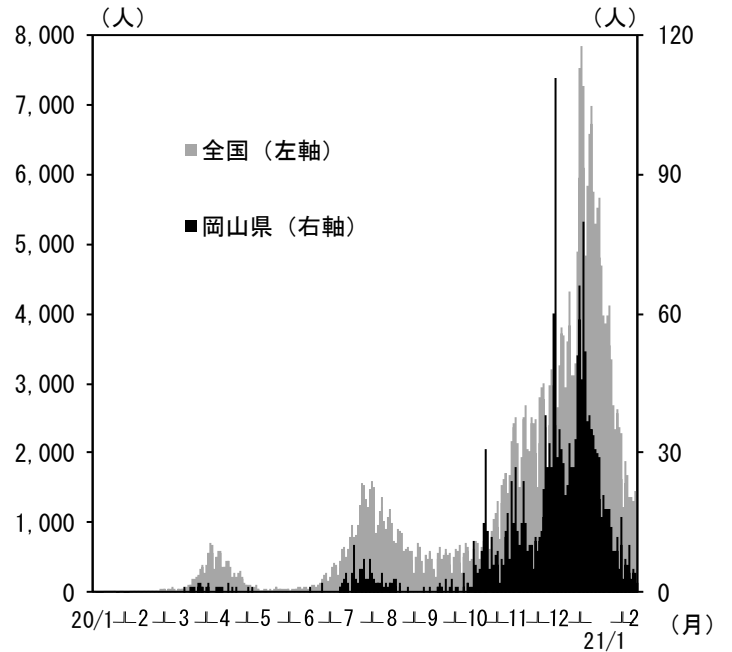
＜景況感の推移、新規感染者数の推移、主要地の人出の変化＞

(図表1) 企業の景況感 (岡山県)



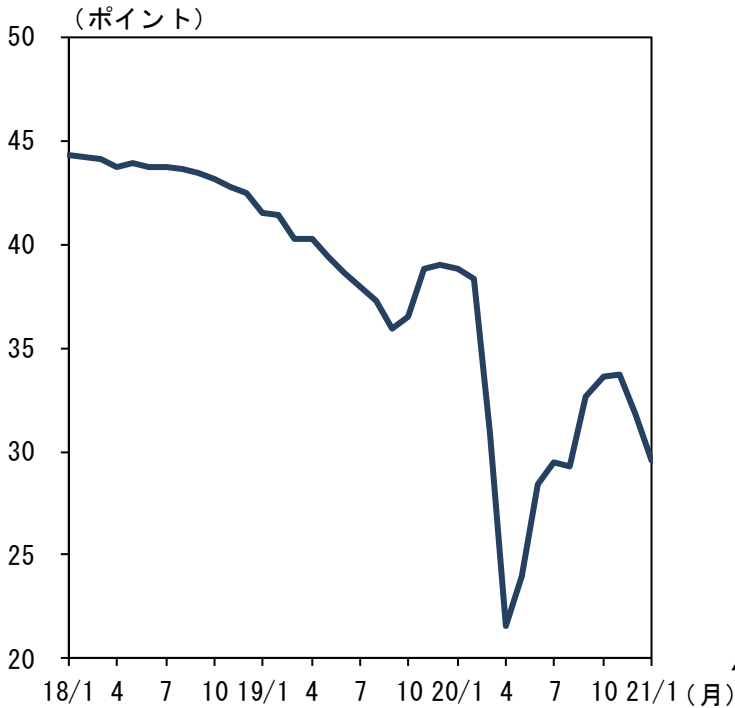
(出所) 岡山県商工会議所連合会、岡山財務事務所、  
日本銀行岡山支店  
(注) 岡山商工会議所DIおよび岡山財務事務所BSIは前の  
3か月と足もと3か月間の景況感の比較を回答。

(図表2) 新規感染者数の推移 (岡山県・全国)



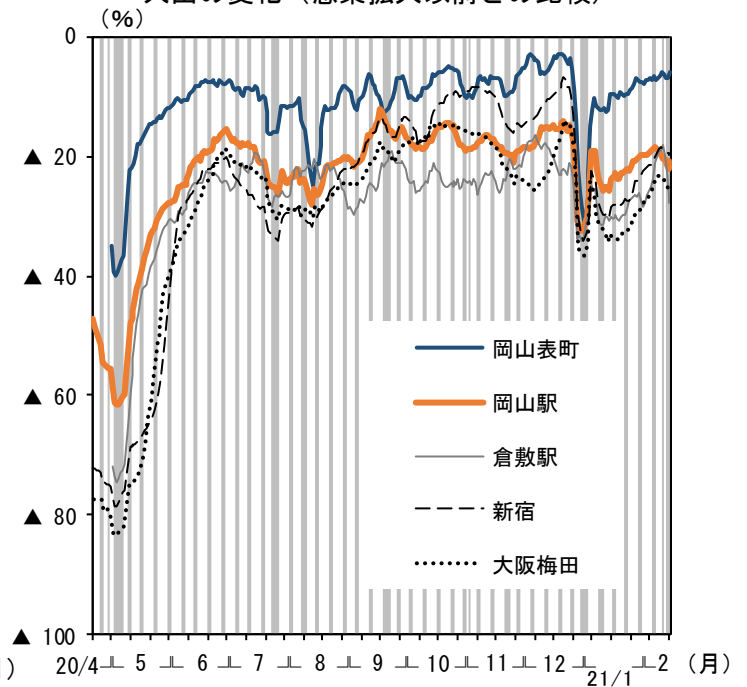
(出所) 厚生労働省、岡山県  
(注) 1. 1日ごとに発表された陽性者数のうち、チャーター  
一便を除く国内事例。  
2. データは2021年2月19日時点。

(図表3) 消費者態度指数 (全国)



(出所) 内閣府  
(注) 二人以上の世帯、季節調整値。

(図表4) 岡山県内および東京・大阪の主要地の  
人出の変化 (感染拡大以前との比較)

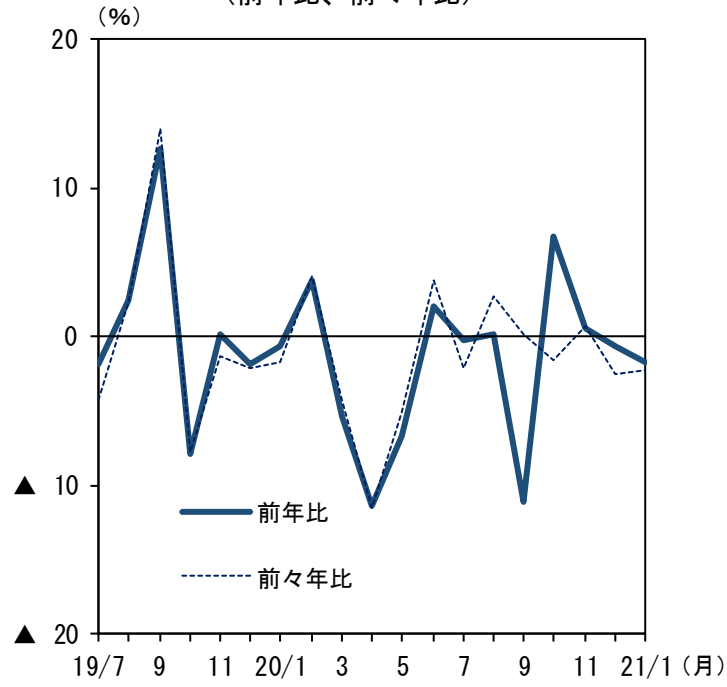
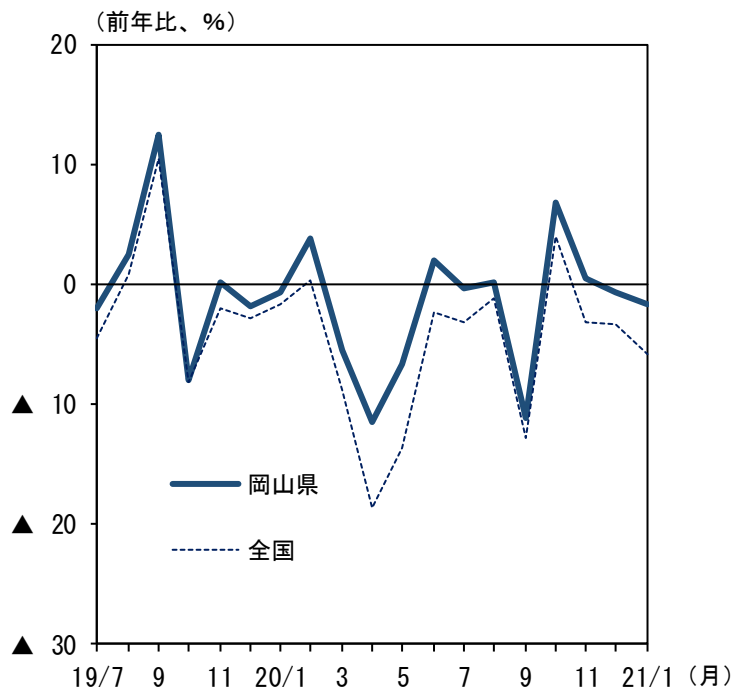


(出所) NTT ドコモ モバイル空間統計  
(注) 1. 15時時点の滞在人口を2020年1月18日～2020年2月  
14日の平均値と比較した値の7日間移動平均 (平  
日は平日平均と、休日は休日平均との比較)。  
2. シャドーは休日。

# 1. 個人消費（1）非耐久財

(図表5) 百貨店・スーパー売上高（岡山県・全国）

(図表6) 百貨店・スーパー売上高（岡山県）  
(前年比、前々年比)

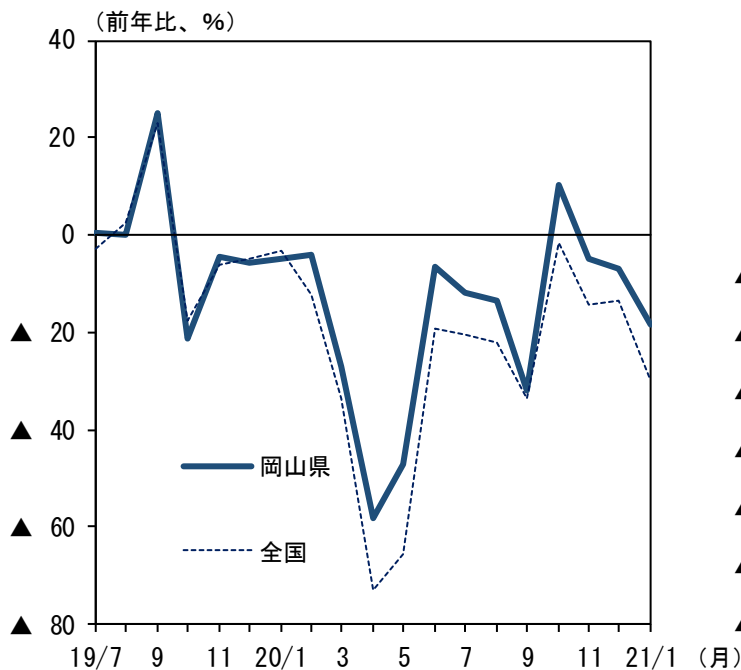


(出所) 経済産業省  
(注) 1. 百貨店・スーパー売上高は全店ベース。  
2. 2021年1月は速報値。

(出所) 経済産業省  
(注) 1. 百貨店・スーパー売上高は全店ベース。  
2. 2021年1月は速報値。  
3. 前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。

(図表7) 百貨店売上高（岡山県・全国）

(図表8) 百貨店売上高（岡山県）  
(前年比、前々年比)

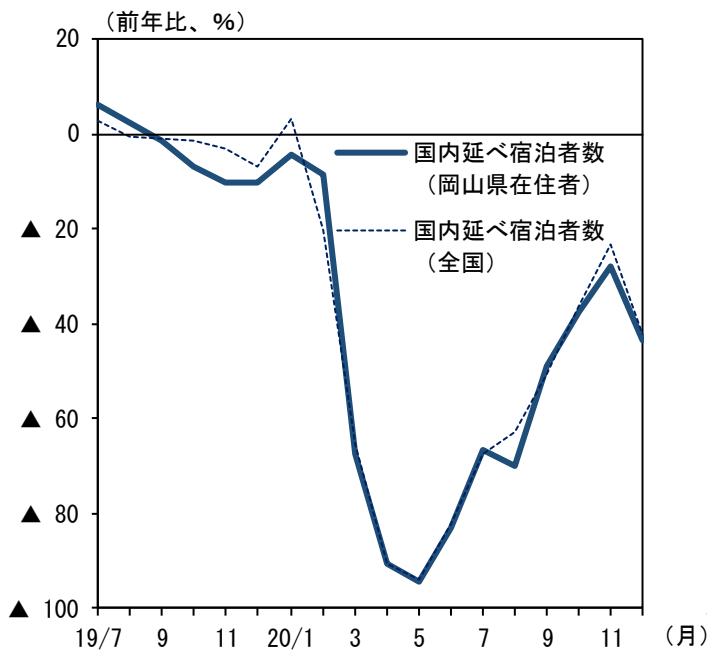


(出所) 日本百貨店協会、中国四国百貨店協会  
(注) 百貨店売上高は既存店ベース。

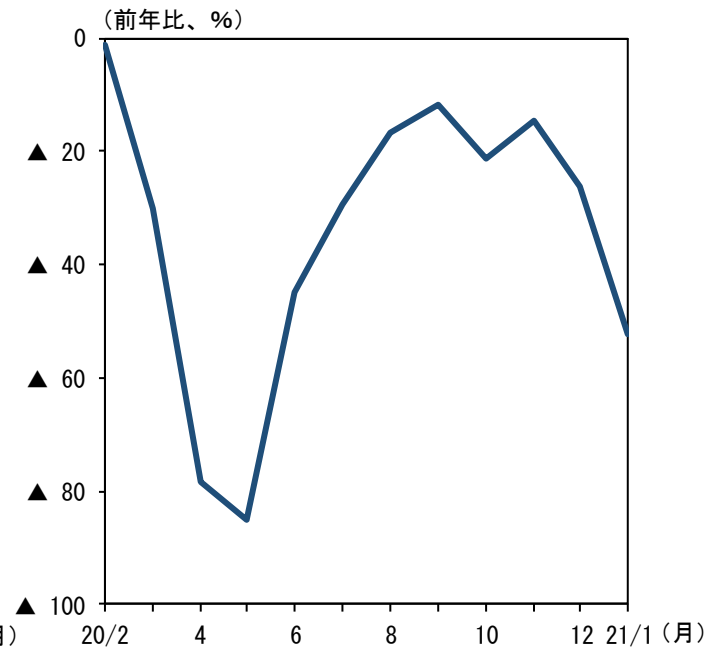
(出所) 中国四国百貨店協会  
(注) 1. 百貨店売上高は既存店ベース。  
2. 前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。

# 1. 個人消費（2）サービス消費（旅行、観光）

（図表9）従業員100人以上の国内施設に宿泊した延べ人数（岡山県・全国）

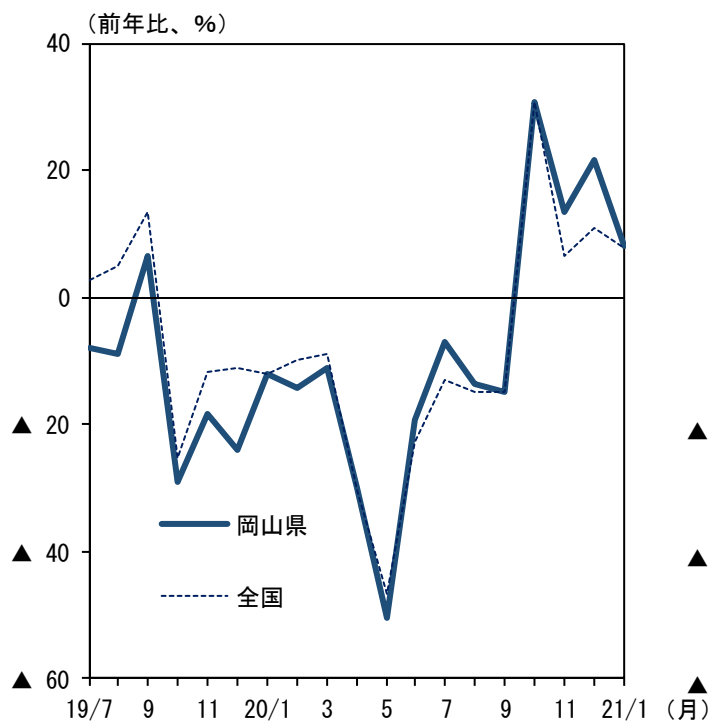


（図表10）岡山県内の主な観光施設の利用者数



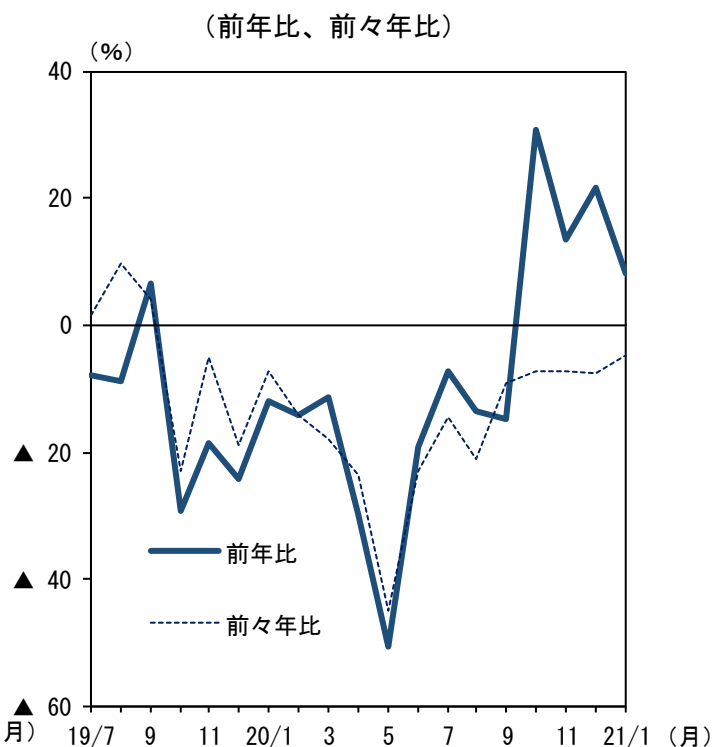
# 1. 個人消費（3）耐久財（自動車、家電）

（図表 11）新車登録台数（岡山県・全国）



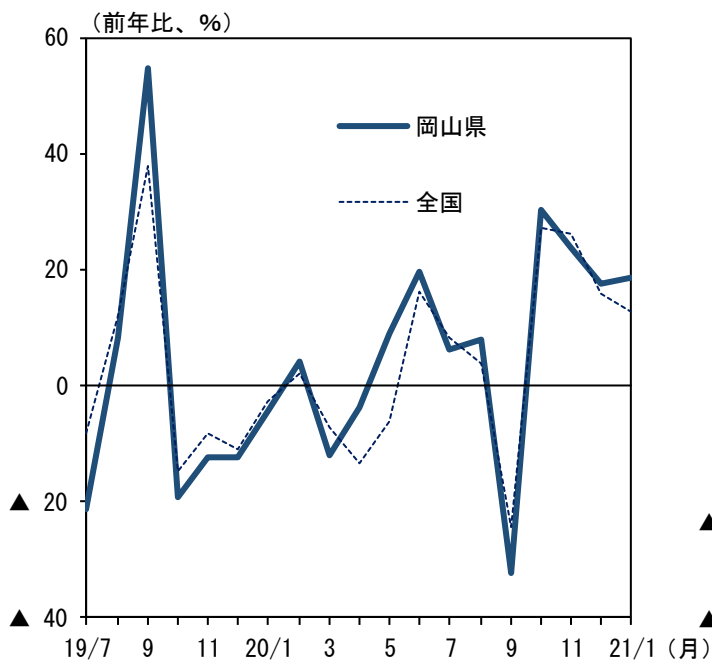
（出所）中国運輸局岡山運輸支局、自販連ほか  
 （注）軽自動車を含む乗用車。

（図表 12）新車登録台数（岡山県）



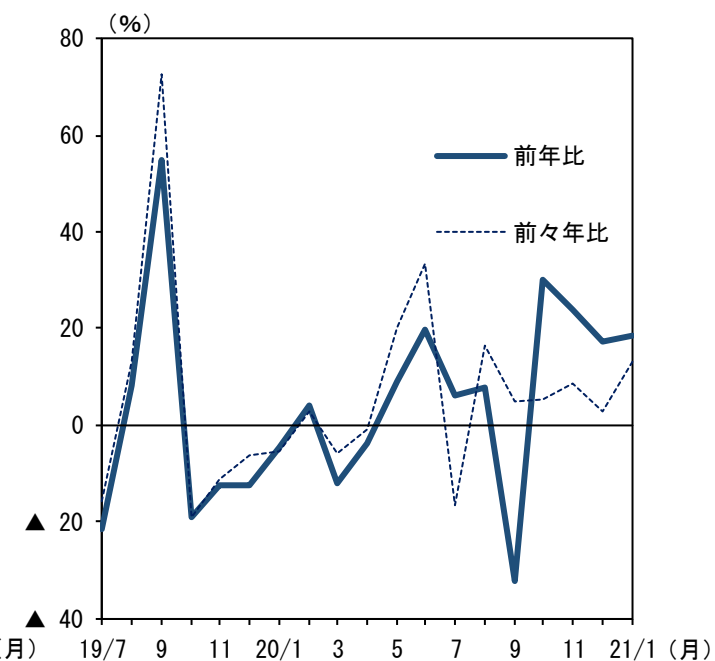
（出所）中国運輸局岡山運輸支局ほか  
 （注）1. 軽自動車を含む乗用車。  
 2. 前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。

（図表 13）家電販売（岡山県・全国）



（出所）経済産業省  
 （注）2021年1月は速報値。

（図表 14）家電販売（岡山県）



（出所）経済産業省  
 （注）1. 2021年1月は速報値。  
 2. 前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。

## (BOX 1) 岡山県内の人出の変化と個人消費の関係性に関する考察

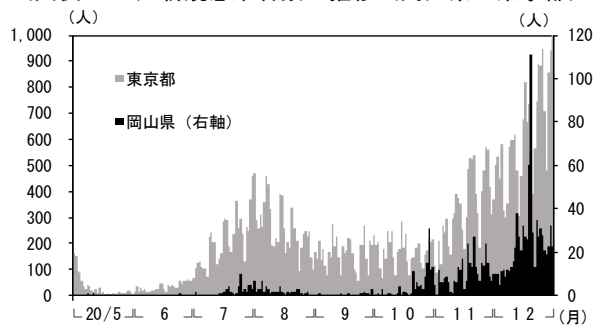
岡山県内の商業施設からは、「客足の動向は岡山県内や首都圏の感染者数に左右される」との声が聞かれている。本BOXでは、岡山の人出の変化が何によって影響されるのかについて、新規感染者数の推移(図B1-1)に着目して分析を行ったほか、人出の変化と消費との関係性について整理した。

岡山駅周辺における滞在人口と東京都・岡山県の新規感染者数の関係を散布図で示すと、新規感染者数が増加すれば人出が減少する傾向がみられる(図表B1-3、4)。これを踏まえ、岡山駅周辺の滞在人口を被説明変数、新規感染者数を説明変数とした回帰分析を行った。なお、人出の変化をみると、休日に人出がより減少する傾向がある(図表B1-2)ことから、説明変数に休日ダミー変数も追加した。

人出の動向は自治体による要請、曜日や天候等、感染者数以外にも様々な要因によって左右され得ることに注意が必要であるが、説明変数に東京の新規感染者数を用いた分析では1%の水準で有意の結果が得られた(図表B1-5)。すなわち、東京の新規感染者数が増加(減少)した際に、岡山での人出が減少(増加)する傾向があったといえる。ここから推察されることとして、全国的な感染拡大に対する警戒感が高まることによって、岡山県民の外出自粛や県外からの来訪の自粛といった、人々の行動変化が生じ、岡山の人出の減少につながる可能性があると考えられる。

人出の減少は個人消費にも影響を与える。例えば、集客力に強みを持つ百貨店や大型商業施設では人出の減少が強まると、同時期に販売額がより減少する様子がみられた(図表B1-6)。その反面、在宅時間が増加したことにより充実した住環境や余暇の楽しみを求めるニーズが高まったことから、家電量販店やホームセンターでは堅調な販売動向がみられているほか(図表B1-7)、ECでの消費額も食料や家具・家電といった巣ごもり関連商品を中心に大きく増加しており(図表B1-8)、押しなべて消費を抑制するような動きにはつながっていない。もっとも、感染拡大の長期化は個人消費の回復ペースを鈍化させる懸念があるため、感染症の動向を含め、引き続き状況を注視していく必要がある。

(図表 B1-1) 新規感染者数の推移 (岡山県・東京都)

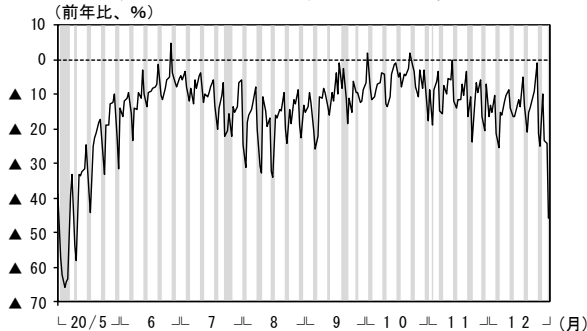


(出所) NHK

(注) 1. 1日ごとの発表数。

2. 2021年2月13日以降に行われた週及訂正分は含まない。

(図表 B1-2) 岡山駅周辺の人出の変化

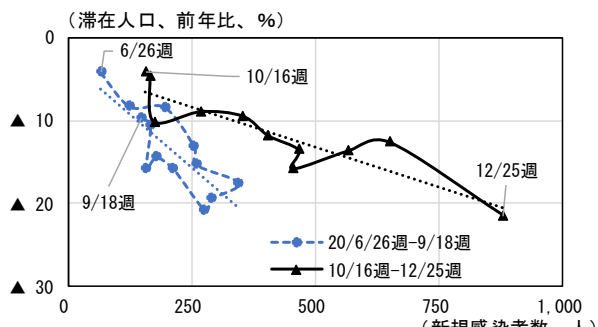


(出所) NTT ドコモ モバイル空間統計

(注) 1. シェドローは休日。12月31日は休日扱い。

2. 岡山駅周辺の15時時点の滞在人口の前年同月平均比。平日は平日平均と、休日は休日平均との比較。

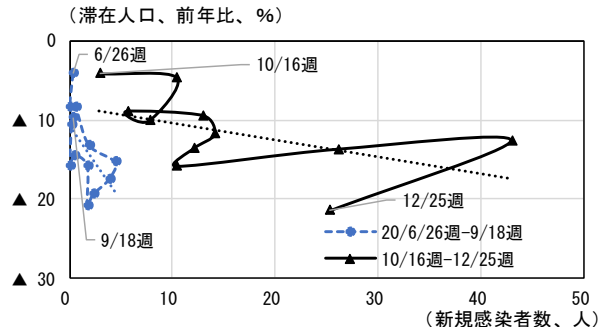
(図表 B1-3) 岡山駅周辺の人出と新規感染者数 (東京都)



(出所) NHK、NTT ドコモ モバイル空間統計

(注) データは週ごとの単純平均値。

(図表 B1-4) 岡山駅周辺の人出と新規感染者数 (岡山県)



(出所) NHK、NTT ドコモ モバイル空間統計

(注) データは週ごとの単純平均値。

(図表 B1-5) 岡山駅周辺の人出と新規感染者数(東京都・岡山県)の関係性

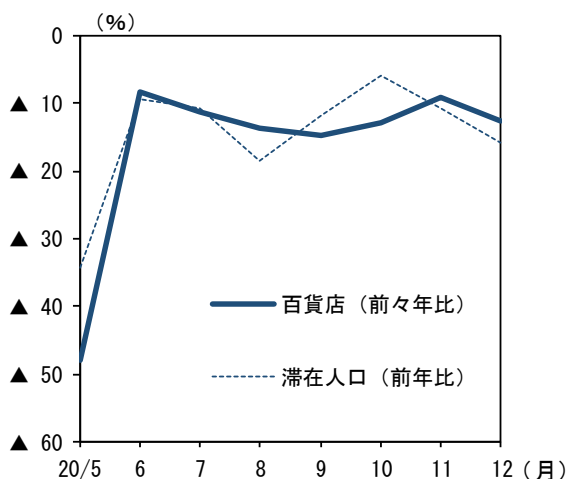
回帰式

$$[\text{滞在人口(前年比, \%)}] = a \times [\text{1日当たりの新規感染者数(人)}] + b \times [\text{休日ダミー}] + c$$

<説明変数>	岡山駅周辺の滞在人口 前年比(%)			
	(1)東京の感染者数を使用		(2)岡山の感染者数を使用	
	係数	P値	係数	P値
新規感染者数(a) (東京都)	-0.012 *** (0.002)	1.0E-07		
新規感染者数(a) (岡山県)			-0.088 ** (0.038)	2.1E-02
休日ダミー(b)	-5.401 *** (0.899)	8.2E-09	-6.469 *** (0.927)	3.9E-11
切片(c)	-7.116 *** (0.691)	2.0E-20	-9.249 *** (0.569)	4.9E-39
決定係数	0.29		0.20	
サンプルサイズ	214		214	

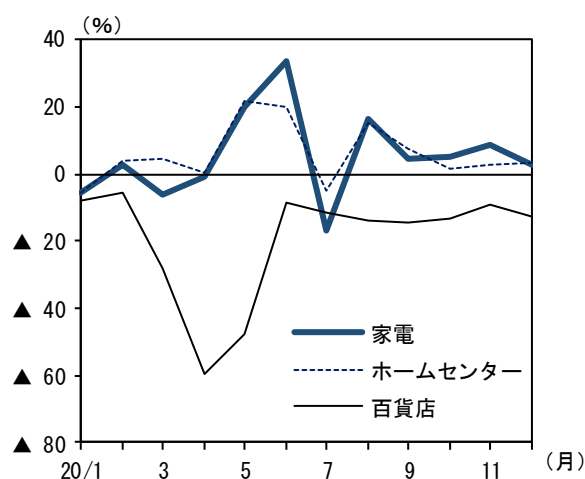
(注) 1. サンプルは緊急事態宣言の期間外である2020年6月1日～12月31日(2021年2月13日以降に行われた遡及訂正分は含まない)。  
2. 新規感染者数は滞在人口に対し2日先行したデータを使用。12月31日は休日扱い。  
3. \*\*, \*\*\*印は5%, 1%水準で有意であることを示す。括弧内の数値は標準誤差。

(図表 B1-6) 岡山駅周辺の人出(前年比)と  
岡山県内の百貨店売上高(前々年比)



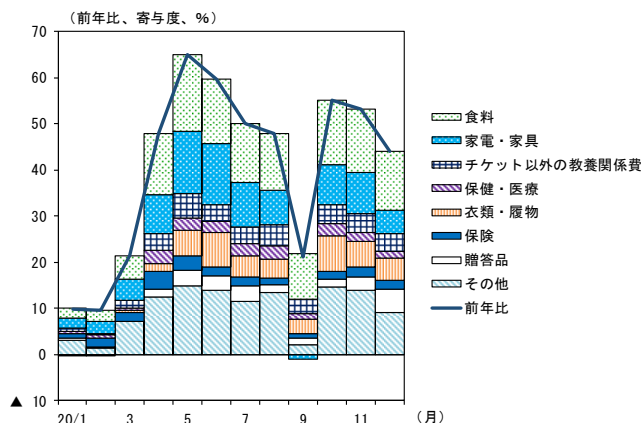
(出所) 中国四国百貨店協会、NTT ドコモ モバイル空間統計  
(注) 1. 百貨店売上高の前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。  
2. 滞在人口の前年比は各月の滞在人口前年比の平均値。

(図表 B1-7) 岡山県内における各業態の売上高(前々年比)



(出所) 経済産業省、中国四国百貨店協会  
(注) 前々年比は日本銀行岡山支店にて算出。

(図表 B1-8) ネットショッピングの支出額\*の推移(全国)



※: 本図表では、巣ごもり消費の動向を捉えるため、「ネットショッピングの支出額」から、巣ごもり消費と関連の低い「宿泊料」、「運賃」、「パック旅行費」及び「チケット」を除いた金額を用いて前年比を算出。

(出所) 総務省  
(注) 1. 二人以上の世帯。  
2. 項目の内訳は以下の通り。  
「チケット以外の教養関係費」は「書籍」、「音楽・映像ソフト、パソコン用ソフト、ゲームソフト」及び「デジタルコンテンツ」の合計。  
「保健・医療」は「医薬品」及び「健康食品」の合計。  
「その他」は「化粧品」、「自動車等関係用品」及び「上記に当てはまらない商品・サービス」の合計。



## (BOX 2) 全国統計からみた感染症による 2020 年の消費動向の変化について

新型コロナウイルスの感染拡大により、「新しい生活様式」の浸透等、人々の行動が感染症対策を意識したものに変わり、消費動向にも変化をもたらしている。本BOXでは、サンプル数による振れの影響を受けにくい全国統計をもとに分析を行った。

消費活動は感染症の拡大により 2020 年春頃に大きく抑制され、特に実質サービス指数は、2019 年にかけて上昇傾向であったが、感染症を踏まえた外出自粛の動き等から、外食や旅行を中心に大きく低下した(図表 B2-1)。その一方、巣ごもり需要から食料品や家電等のモノへの支出が増加した。その結果、2020 年の消費支出に占めるサービス支出のウエイトは前年対比縮小した(図表 B2-2)。

消費支出を品目別にみると、1 度目の緊急事態宣言が解除されて以降も、感染症対策を意識した行動が継続し、消費支出額にも影響している様子がみられる(図表 B2-3、4)。例えば、外食やパック旅行への支出は、全国に緊急事態宣言が発出された 4・5 月に激減した後、秋頃には感染症の落ち着きや政策効果も相俟って幾分回復した様子がみられるが、例年の水準に戻りきれないまま、年末にかけての感染症の再拡大によって再び減少している様子がみられる。また、外出自粛に伴って衣料品や化粧品への支出も減少しているほか、従来から減少トレンドにあったスーツへの支出は、感染症対策のためテレワークが普及したことから、支出額が一段と減少している。その一方で、在宅時間が増加したことから、内食・巣ごもり需要が高まり、食材や調理家電、テレビやゲーム等への支出は例年と比べ増加している。また、3密回避のため、他の人と空間を共有するようなサービス消費が減少し、人との距離を保ちやすい自転車やアウトドア用品への支出が増加している。

このように、感染症対策を意識した行動は、その場所に向いて提供を受けるサービスへの支出減少に繋がり、足もとでも同様の消費傾向が継続している。

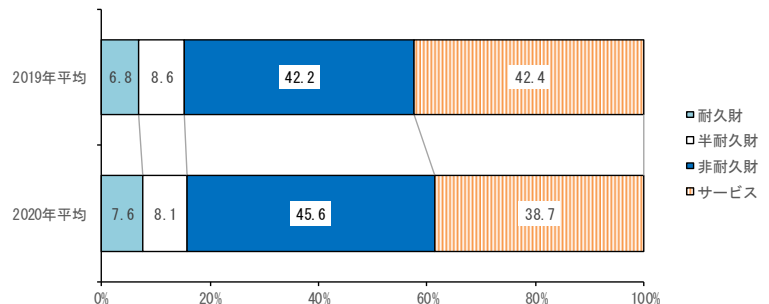
(図表 B2-1) 消費活動指数 (全国)  
(2017=100)



(出所) 日本銀行

(注) 2011=100指数を当店で2017=100に加工したもの。

(図表 B2-2) 財・サービスの支出ウエイトの変化 (全国)



(出所) 総務省

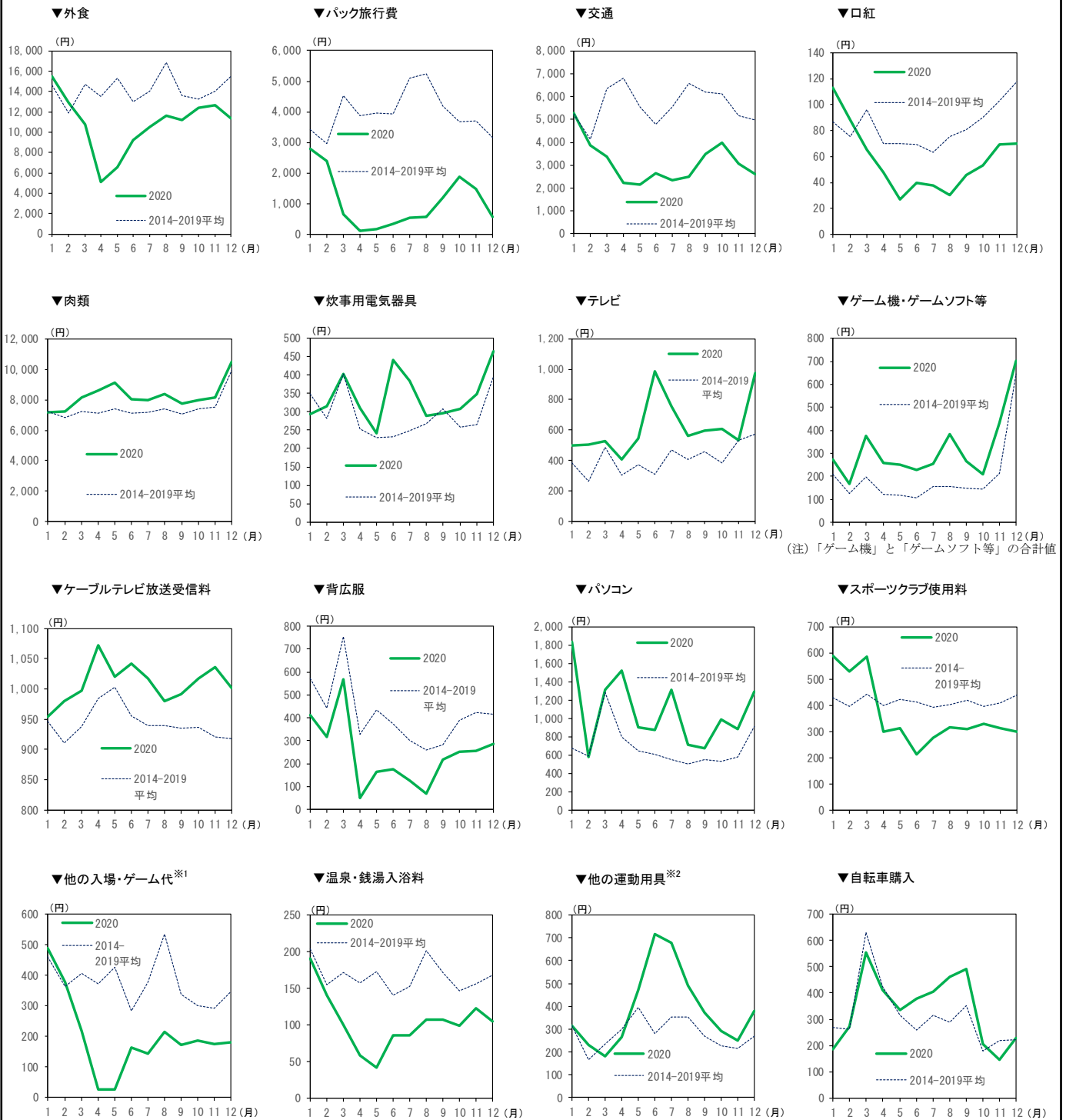
(注) 二人以上の世帯。

(図表 B2-3) 感染症対策を意識した行動による消費の変化

	支出の減少	支出の増加
外出自粛	・外食 ・旅行、交通費	・内食需要(食品、調理家電等) ・ケーブルテレビ放送受信料
テレワーク	・背広	・パソコン
3密回避	・ジム ・銭湯 ・カラオケ	・アウトドア用品 ・自転車

(注) 下線はサービス支出の項目。

(図表 B2-4) 品目ごとの支出額の推移 (全国)



(注) 「ゲーム機」と「ゲームソフト等」の合計値

※1:P8 図表 B2-3 のうちカラオケの料金が含まれる。

※2:P8 図表 B2-3 のうちアウトドア用品が含まれる。

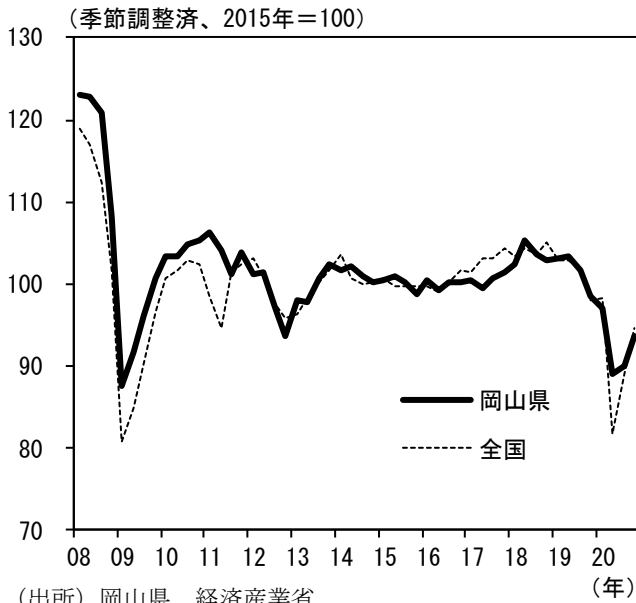
(出所) 総務省

(注) 1. 二人以上の世帯。

2. 「2014-2019年平均」はそれぞれの月の6年間の平均値。

## 2. 生産

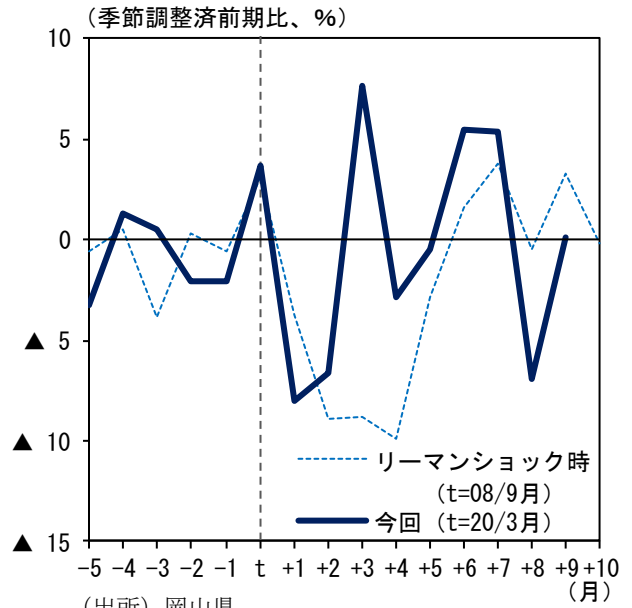
(図表 15) 鉱工業生産指数 (岡山県・全国)



(出所) 岡山県、経済産業省

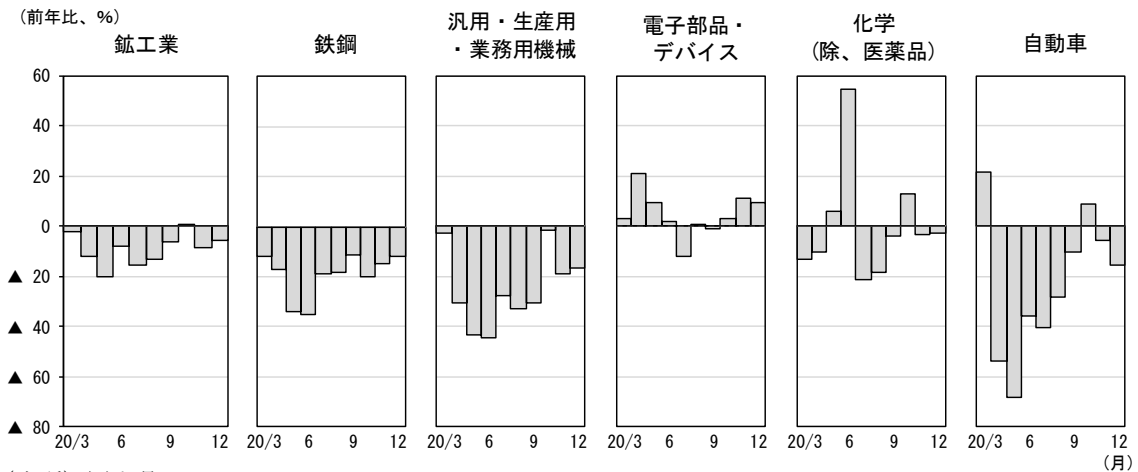
(注) データは四半期。月ごとの計数から算出。

(図表 16) 鉱工業生産指数 (岡山県)



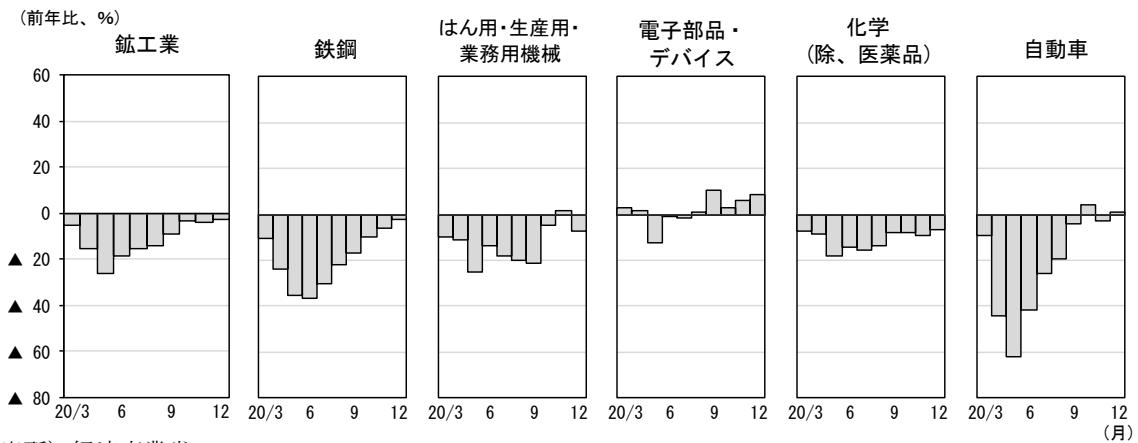
(出所) 岡山県

(図表 17) 鉱工業生産指数 業種別の動向 (岡山県)



(出所) 岡山県

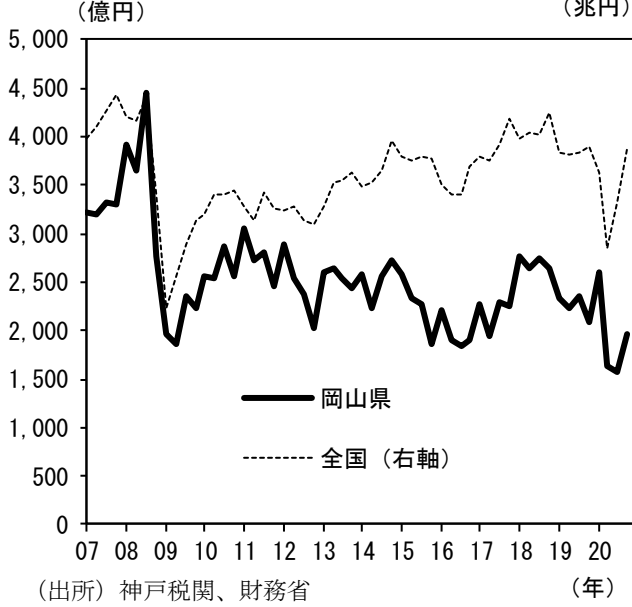
(図表 18) 鉱工業生産指数 業種別の動向 (全国)



(出所) 経済産業省

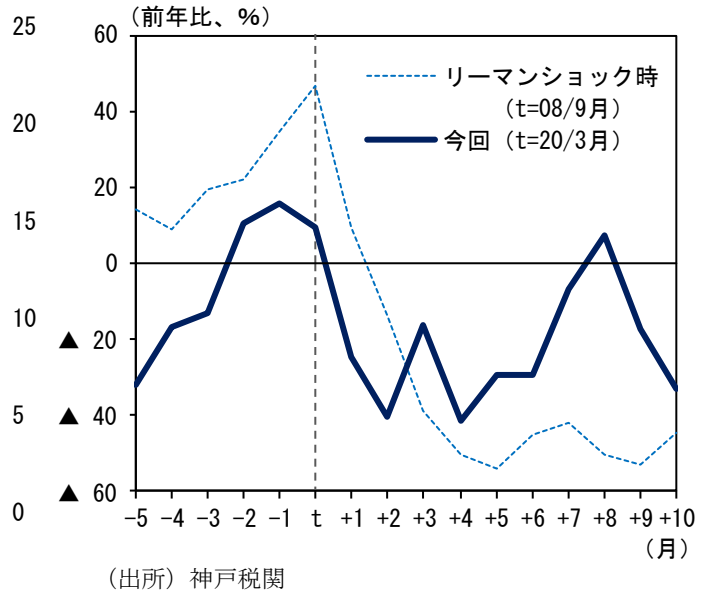
### 3. 輸出

(図表 19) 輸出額 (岡山県・全国)

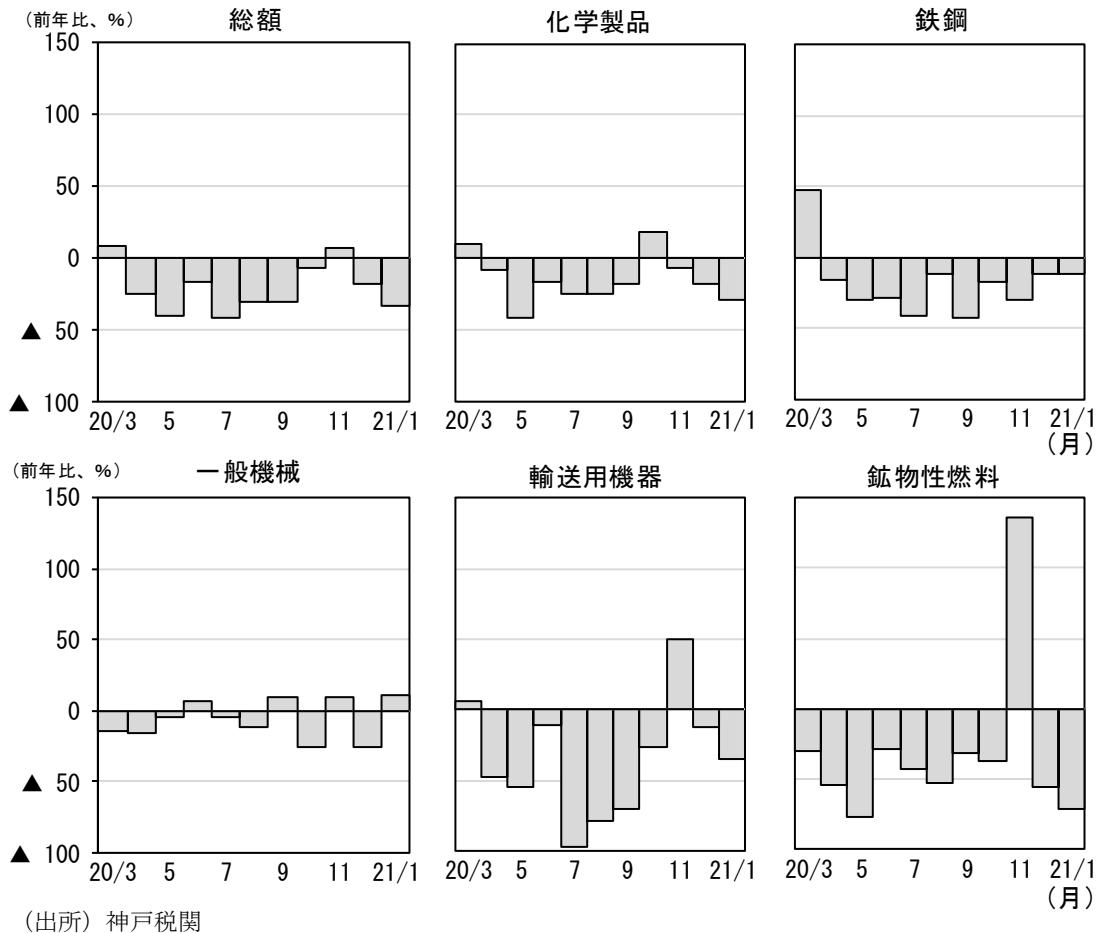


(注) データは四半期。月ごとの計数から算出。

(図表 20) 輸出額 (岡山県)



(図表 21) 輸出額 品目別の動向(岡山県)



### (BOX 3) 鉱工業生産指数からみる岡山県製造業の特徴

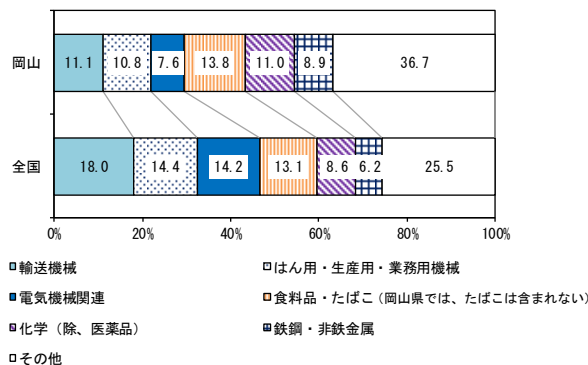
国内製造業の主要業種について、鉱工業生産指数（以下、IIP）のウェイトを岡山県と全国平均とで比較すると、同様の業種が上位を占めている中で、岡山は全国と比べると主要業種の占める割合が低く、特定の業種に偏らない産業構成となっている（図表 B3-1）。業種の構成を詳しくみると、輸送機械や一般機械等の最終財のウェイトが小さい一方、化学や鉄鋼等の中間財のウェイトが高くなっていることが特色となっている。

過去の IIP の推移を確認すると、岡山と全国は概ね同様な動きをしているが、岡山の方が変動幅がやや小さい（図表 B3-2）。県内生産が特定の業種に大きく偏っていないことも一因と考えられる。

足もとの IIP の前年比を全国と比較すると、岡山は全国同様 5 月をボトムに持ち直しが続いている（図表 B3-3、4）。もっとも、仔細にみるとボトムである 5 月の前年比マイナス幅の深さは岡山の方が幾分小さい。内需・外需の減少を受け大きく生産が減少した自動車産業のウェイトが全国対比で小さいことが要因と考えられる。

先行きの生産動向を展望するにあたって県内の在庫・出荷バランスをみると、内需・外需の持ち直しを受けて 20/10 月以降は出荷の増加（減少）率が在庫の増加（減少）率を上回っている（図表 B3-5）。即ち、足もとでは需要の回復に伴い、在庫が減少する状況となっている。また、主要業種ごとにみても同様の傾向がみられている（図表 B3-7）。在庫循環図（図表 B3-6）において④（在庫調整）→①（在庫減少）に移行する局面近辺では景気が谷となることが多く、一般的な傾向としては当面持ち直しの継続が期待できる。

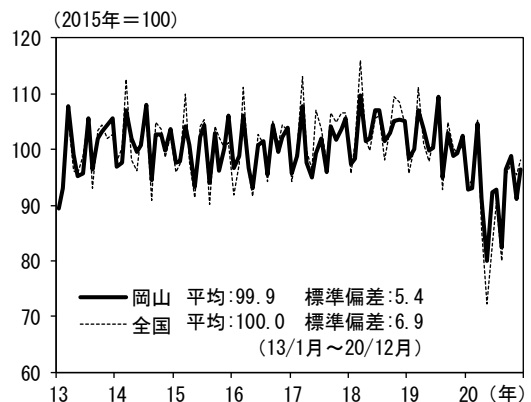
(図表 B3-1) 鉱工業生産指数ウェイト (岡山県・全国)



(出所) 岡山県、経済産業省

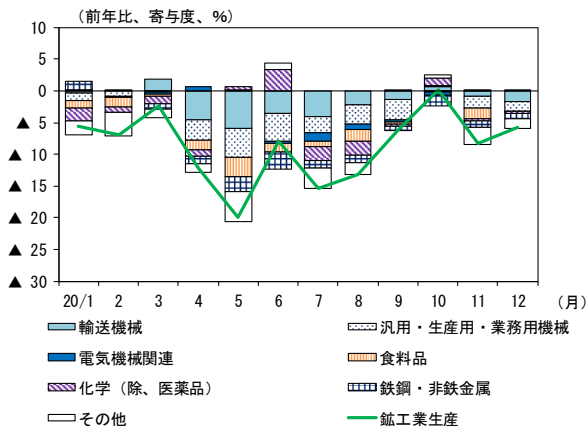
(注) データは 2015 年基準。電気機械関連は電気・情報通信機械と電子部品・デバイスの合算。以下 B3-3、4 も同じ。

(図表 B3-2) 鉱工業生産指数 (岡山県・全国)



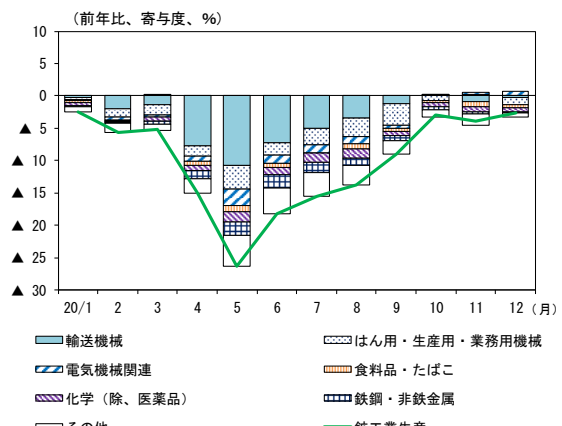
(出所) 岡山県、経済産業省

(図表 B3-3) 鉱工業生産指数の推移 (岡山県)



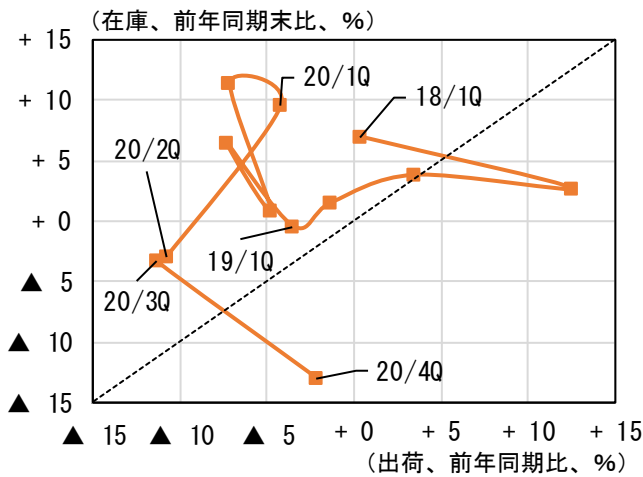
(出所) 岡山県

(図表 B3-4) 鉱工業生産指数の推移 (全国)



(出所) 経済産業省

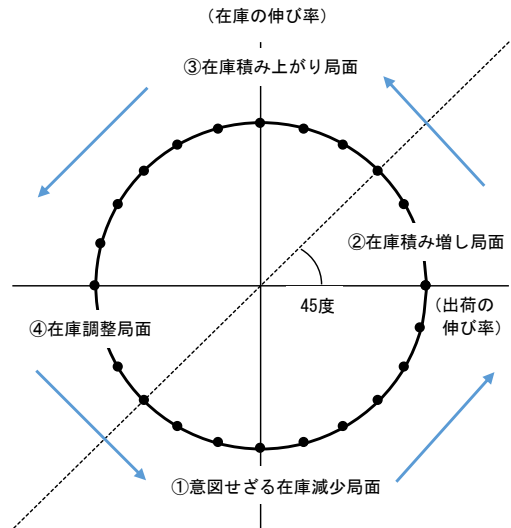
(図表 B3-5) 在庫循環図(岡山県)



(出所) 岡山県

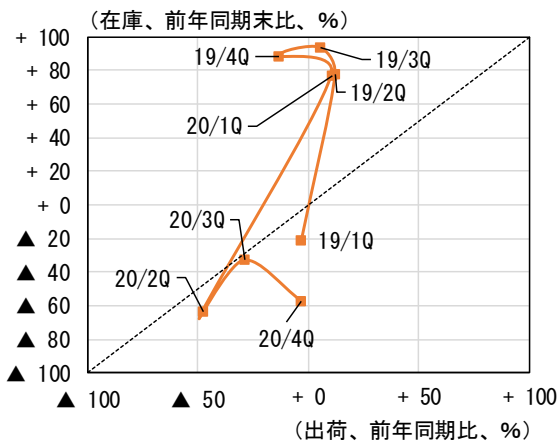
(注) 2018年1Q~2020年4Qまでを表示。

(図表 B3-6) 在庫循環図の概念図

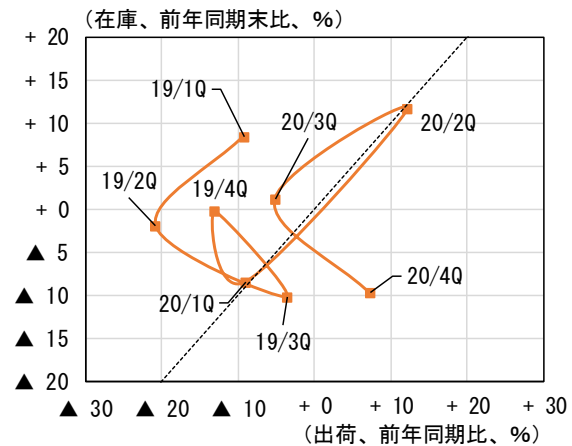


(図表 B3-7) 主要コンポーネント別の在庫循環図(岡山県)

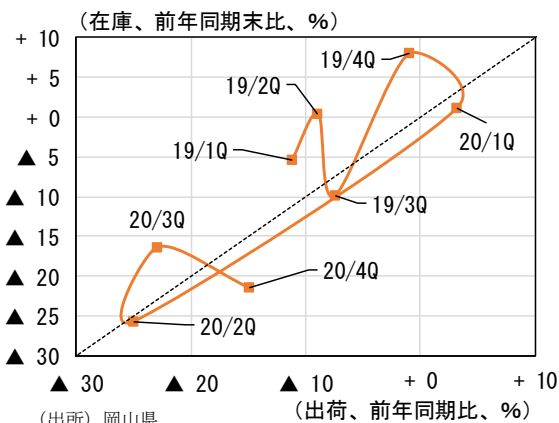
自動車



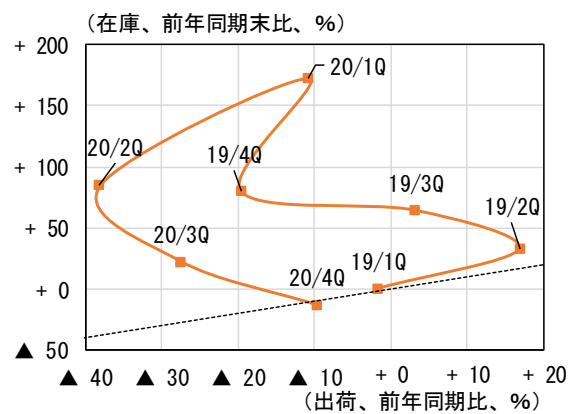
化学(除、医薬品)



鉄鋼



汎用・生産用・業務用機械

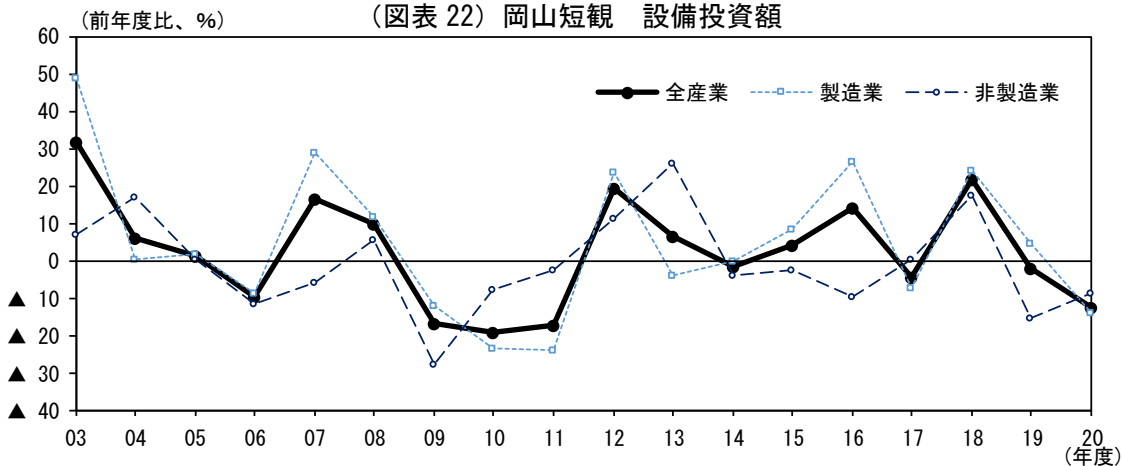


(出所) 岡山県

(注) 2019年1Q~2020年4Qまでを表示。

#### 4. 設備投資

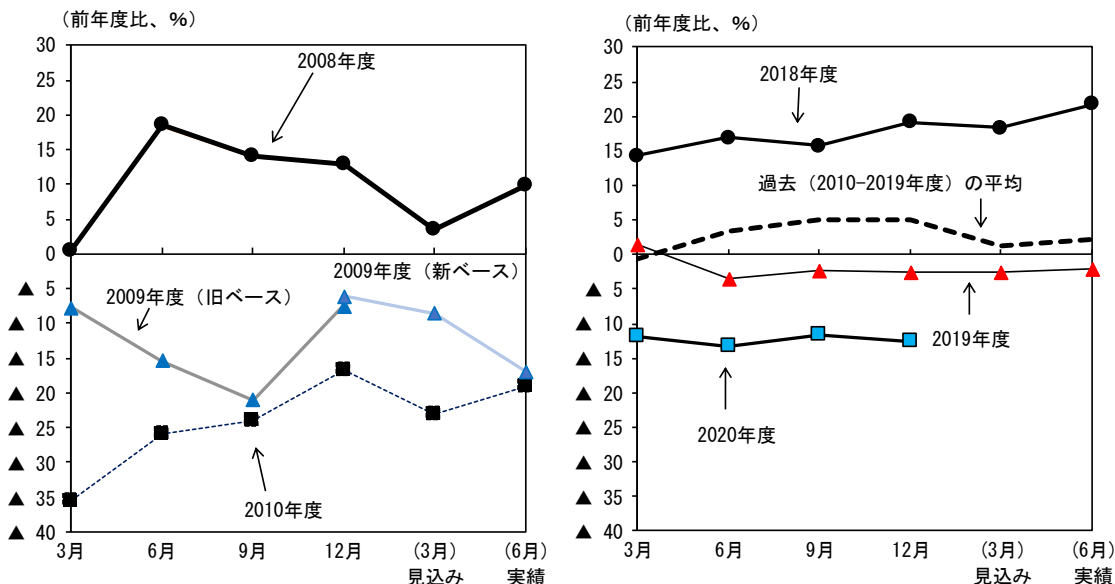
(図表 22) 岡山短観 設備投資額



(出所) 日本銀行岡山支店

(注) 土地投資額は含み、ソフトウェア投資額・研究開発投資額は含まない。  
直近の値は2020年12月時点の予測値。

(図表 23) 岡山短観 設備投資額の足取り (全産業)

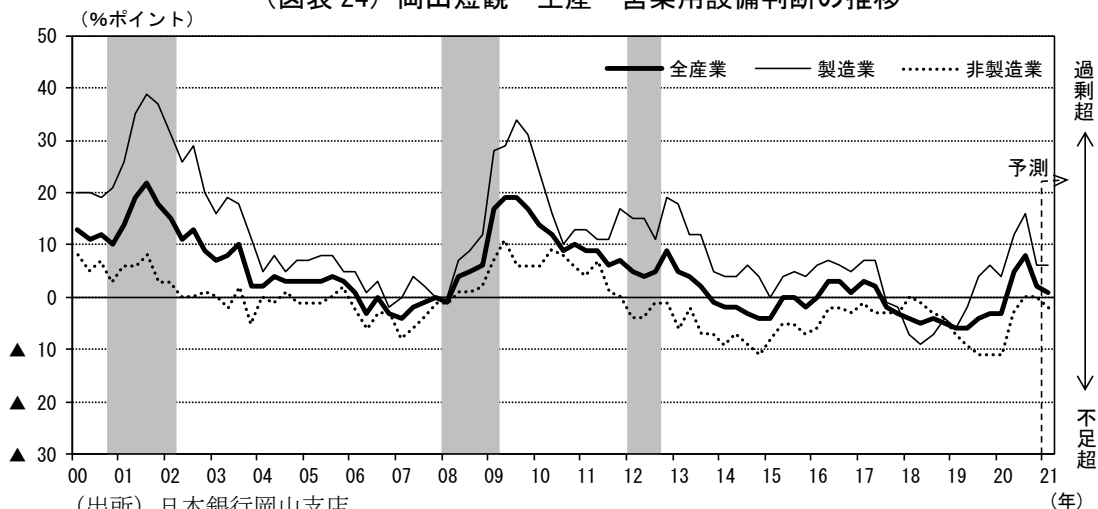


(出所) 日本銀行岡山支店

(注) 土地投資額は含み、ソフトウェア投資額・研究開発投資額は含まない。

2009年度に短観調査対象企業の定例見直しを実施したため、計数は連続していない。

(図表 24) 岡山短観 生産・営業用設備判断の推移



(出所) 日本銀行岡山支店

(注) シャドーは、景気後退期(内閣府調べ)。

